

事例24 単元「身近な地域を調べる方法」

地図や資料を使って、多面的に身近な地域を調べ 伝えることで友達もわかってくれた

社会 第1学年

野々市町立布水中学校

1 事例の概要

本校は、平成20・21年度県の児童生徒の「活用力」向上モデル事業の指定を受け、『自ら学び、自己を高める生徒の育成～基礎的、基本的な知識・技能の習得を図り、「生きる力」を育む授業づくり～』をテーマとして研究実践を進めている。教科としても、この方針に沿って研究を進めてきた。

本年度の基礎学力調査結果の分析を踏まえると、社会科では資料の読み取りの能力について課題が見られた。特に三年生においては、関心・意欲や思考・判断においても課題が見られた。それは、重要項目を覚えることに終始し、関心・意欲を高めたり、思考・判断させたりする場面が少なかったことが課題だったと考えられる。

このような現状分析から、社会科では資料の読み取り方の基本を習得させるとともに、身近な生活に密着した資料を使うことで、関心・意欲も高めていくこととした。また、複数の資料から情報を読み取り思考していくスキルをグループ活動を通して発展的に指導していくこととした。

A-1 学校研究の概要

A-2 研究の構想図

A-3 布水中学校授業スタイル

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・身近な地域の調査について関心を持ち、地域の特徴について複数の資料を活用して調べるなど、意欲的に追究しようとする。(関心・意欲・態度)
- ・複数の資料を活用して調べ、身近な地域の特徴を多面的に考察することができる。(思考・判断)
- ・身近な地域を調べるために適切な資料を収集・選択し、そこから解釈した身近な地域の特徴を工夫して表現することができる。(技能・表現)
- ・地図などの資料は目的や用途によって表され方が違うことを知り、複数の資料を使い分けることを通して身近な地域を多面的に理解する。(知識・理解)

(2) 指導上の工夫点（視点）

① 「学習意欲の向上」

- ・授業導入時における工夫
- ・授業での決まり事の明確化（学習規律）
- ・教材提示方法の工夫
- ・肯定的な声かけ
- ・がんばりシール
- ・生徒の作品を用いた学習の展開
- ・「活発な時間」と「静かな時間」を意識的に組み立てた授業づくり

② 「学び合い活動」

- ・「個人→グループ→個人」の流れを意識した授業展開

- ・話し合いの形態の工夫
- ・さまざまな表現方法の導入（口頭発表・新聞・黒板掲示など）
- ・評価表の導入（自己評価・他者評価）

③ 「学習の基礎・基本の定着」

- ・繰り返し練習
- ・小テストの取組
- ・少人数を生かした個別指導
- ・学び合う共感的な人間関係

B-1 指導法の工夫

3 指導の実際

過程	配時	○生徒の学習活動 ・予想される生徒の反応	教師の指導、支援(●)と 評価(◎観点、【 】方法)
考える	20分	○ 分担して調べ、調べたことをグループ内で説明し合う。 ・そんな場所があるのか。 ・今と昔でだいぶ違うな。 ○ 聞いた説明を参考にし、各自が野々市町の紹介文をつくる。	・グループ内で、調査内容を共有しあう。(◎) ・どんな資料から何がわかったのかを伝え合うよう促す。 ・メモを参考にしながら整理して紹介文をつくるよう助言する。
まとめ	10分	○ 班代表の発表を自分が書いた紹介文と比較しながら聞き、野々市町の特徴を整理する。	③ 様々な資料を活用して野々市町の特徴をつかみ、町の紹介文を作成している。【発表・ワークシート】 □ どの資料からどのような特徴がつかめたのかを整理するよう助言する。(◎) (C→B)【ワークシート】
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> まとめ 様々な資料を使えば、いろいろな角度から野々市町の特徴をとらえ紹介することができる。 </div>	
		○ 自分の紹介文の改良点や本時で学んだことをワークシートに記入し、発表する。	・発表者の発表を聞いて、自分の紹介文を振り返るよう助言する。

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ペアでの話し合いがスムーズに行われ、調査内容を共有できたことは、課題に迫る手だてとして有効だった。
- ・様々な資料（新旧の写真や、地形図、他地域の資料などの利用）から得られた情報を関連づけて、課題に迫る授業展開の工夫が見られた。

(2) 課題

- ・板書計画をさらに思考の流れに沿って構築する必要がある。
- ・板書の際、チョークの色の工夫や意見を整理するためのさらなる工夫があるとよい。
- ・単元を構成し、授業を展開していく流れの中で生徒の意見を生かしたまとめ方を工夫する。
- ・地形図、写真の意見が同じものが多かった。班によって使う資料を変えるとよい。
- ・表現する活動は充実してきたが、子ども同士が討論し、協同的に課題を解決する学習法を取り入れることも考えていかなければならない。